

報告書

WTT ユースコンテナー・ルクセンブルク 2025



主催 (公財)全国高体連卓球専門部

1.大会名 WTT ユースコンテナー・ルクセンブルク 2025

2.期 日 令和7年9月4日(木)~9月15日(月)

(1)大会 令和7年9月10日(水)~9月13日(土)

(2)集合 役員 9月4日(木) 15:00

選手 9月4日(木) 17:00 関西エアポートワシントンホテル

(3)解散 関西空港 9月15日(月)9:00

3.会 場 Coque National Sports and Culture Centre

2, rue Léon Hengen L-1745 Luxembourg

4 宿泊先 ドイツ フランクフルト:Maritim Hotel Frankfurt

Theodor-Heuss-Allee 3 60486 Frankfurt/Main

ルクセンブルク:Alvise Parc Hotel

120 Rte d'Echternach, 1453 Dommeldange Luxembourg

5.日 程

日数	月/日(曜日)	時間	日程等
1	9/4(木)	17:00	集合(関西エアポートワシントンホテル)役員 15:00
2	9/5(金)	06:30 09:30 18:00	ホテル出発 関西発 LH-743 便 ミュンヘン 16:35 着 ミュンヘン発 LH-117 便 フランクフルト 19:00 着 フランクフルト市内ホテルまで移動・泊
3 4	9/6(土) ~7(日)		ドイツ・ザールブリュッケンにて2日間事前合宿 ザールブリュッケン・クラブハウス泊
5	9/8(月)	未定	ザールブリュッケン発 ルクセンブルク着
6 ~10	9/9(火) ~13(土)		練習 10日~13日 大会 種目 U-17 U-19 シングルス
11	9/14(日)	09:50 12:25	ルクセンブルク発 LH-2317 便 ミュンヘン 10:55 着 ミュンヘン発 LH-742 便
12	9/15(月)	07:15 09:00	関西空港着 解団式、解散

6.役員・選手名簿

役 職	氏 名	所 属	備 考
団長/女子監督	宗片 信一	(公財)全国高体連卓球専門部	青森県:青森商業
男子監督	星野 朗	(公財)全国高体連卓球専門部	栃木県:真岡女子
男子選手	谷本 拓海	兵庫県:育英高等学校	WTT バンコク選出
	森 駿登	福岡県:希望が丘高等学校	ベトナム選出
女子選手	島村 果怜	神奈川県:横浜隼人高等学校	WTT バンコク選出
	大野 紗蘭	福岡県:希望が丘高等学校	ベトナム選出

試合記録

◆U17男子シングルス

優勝 森駿登(希望が丘)

決勝

		9-11			
森駿登	3	12-10	1	LEE Hong An	
		11-4		(マレーシア)	
		11-9			

準決勝

		11-7			
森駿登	3	11-5	0	Gavin YUAN	
		11-7		(スコットランド)	

準々決勝

		12-10			
森駿登	3	11-8	0	Noah HERSEL	
		11-3		(ドイツ)	

2回戦

		12-10			
森駿登	3	11-5	0	Ivan KAHN	
		11-8		(オランダ)	

1回戦

		11-2			
森駿登	3	11-9	0	Aleksander PILCH	
		11-8		(ポーランド)	

予選リーググループ9:森 駿登 予選通過

		5-11			
		8-11			
森駿登	3	11-8	2	Tien Nghia PHONG	
		11-9		(ドイツ)	
		11-9			
		11-6			
森駿登	3	11-6	0	Philip THEISEN	
		11-5		(ルクセンブルク)	

◆U17女子シングルス

3位 大野紗蘭(希望が丘)

準決勝

		11-7			
		8-11			
大野紗蘭	2	6-11	3	Lorena MORSCH	
		11-9		(ドイツ)	
		8-11			

準々決勝

		11-4			
大野紗蘭	3	16-14	0	Rheazhu CHEN	
		11-7		(ドイツ)	

1回戦

		11-4			
大野紗蘭	3	11-4	0	uliiia PELYK(ポーランド)	
		11-4			

予選リーググループ7:大野 紗蘭 予選通過

		11-7			
大野紗蘭	3	11-6	0	Veronika PRYSHCHEPA	
		11-5		(ウクライナ)	
		11-4			
大野紗蘭	3	11-4	0	Fatme EL HAJ	
		11-5		(ドイツ)	
		11-6			
大野紗蘭	3	11-4	0	Lessia LEWYCKYJ	
		11-8		(ベルギー)	

◆U19男子シングルス

優勝 谷本拓海(育英) 2位 森駿登(希望が丘)

決勝

		11-8		
谷本拓海	3	11-7	0	森駿登
		11-9		

準決勝

		9-11		
谷本拓海	3	11-8	1	Jamal OUDRISS (ドイツ)
		11-3		
		11-9		
森駿登	3	11-6	1	Johann MAHL (ドイツ)
		11-8		
		11-13		
		11-4		

準々決勝

		9-11		
谷本拓海	3	11-8	1	Noah HERSEL (ドイツ)
		11-5		
		11-6		
森駿登	3	8-11	1	Per GEVERS (ドイツ)
		11-9		
		11-7		
		11-3		

2回戦

		11-6		
谷本拓海	3	11-5	0	Maxime DEGIVE (ベルギー)
		11-7		
森駿登	3	12-10	0	Alexander SAHAKIANTS (ドイツ)
		11-7		
		11-8		

予選リーググループ9:森 駿登 1位通過

		11-6		
森駿登	3	11-8	0	Feliks GULAN (ポーランド)
		11-4		
森駿登	3	11-7	0	Leon VIHRELAIHO (フィンランド)
		11-3		
		11-9		
森駿登	3	11-3	0	Jamal OUDRISS (ドイツ)
		11-6		
		11-6		

予選リーググループ10:谷本 拓海 1位通過

		11-7		
谷本拓海	3	11-5	0	Per GEVERS (ベルギー)
		11-5		
谷本拓海	3	11-0	0	RIES Gilles (ルクセンブルク)
		11-3		
		11-9		
谷本拓海	3	11-3	0	Pit SCHOLTES (ルクセンブルク)
		11-6		
		11-6		

◆U19女子シングルス

2位 島村果怜(横浜隼人) 3位 大野紗蘭(希望が丘)

決勝

		11-9		
島村果怜	1	6-11	3	陳志昕 (チャイニーズタイペイ)
		4-11		
		11-13		

準決勝

		11-6		
島村果怜	3	11-9	0	Shriya ANAND (インド)
		11-3		
大野紗蘭	0	8-11	3	陳志昕 (チャイニーズタイペイ)
		10-12		
		6-11		

準々決勝

		12-10		
島村果怜	3	11-5	0	Elisa NGUYEN (ドイツ)
		11-6		
大野紗蘭	3	13-15	2	Lorena MORSCH (ドイツ)
		11-6		
		11-9		
		8-11		
		13-11		

2回戦

		11-7		
島村果怜	3	11-4	0	Luisa DUECHTING (ドイツ)
		11-4		
大野紗蘭	3	12-10	0	Elinor DAVIDOV (イスラエル)
		11-9		
		11-3		

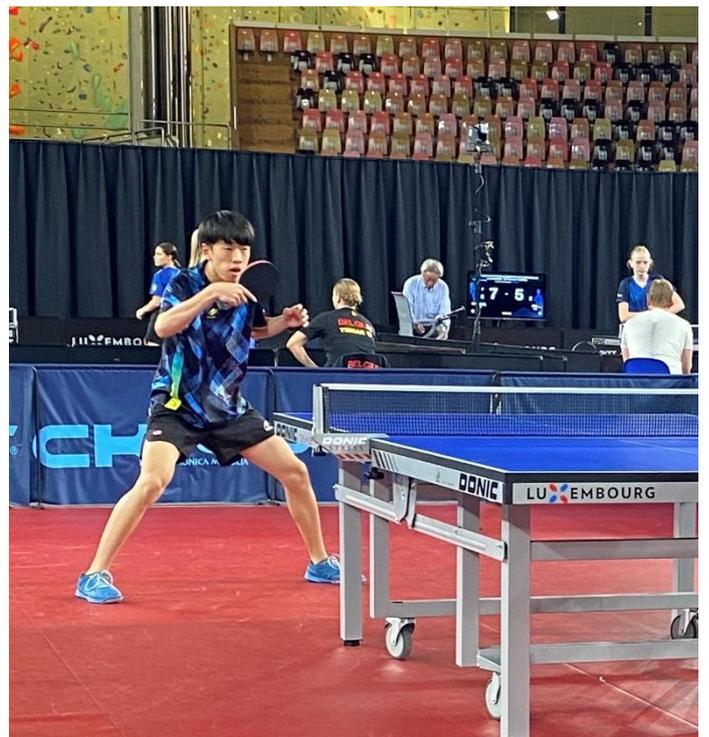
予選リーググループ6:島村 果怜 1位通過

		11-6		
島村果怜	3	8-11	1	Enisa SADIKOVIC (ルクセンブルク)
		11-1		
		12-10		
島村果怜	3	11-6	2	Fatme EL HAJ (ドイツ)
		5-11		
		10-12		
		11-4		
		11-3		

予選リーググループ9:大野 紗蘭 1位通過

		11-3		
大野紗蘭	3	11-9	1	Sofia MINURRI (イタリア)
		8-11		
		11-3		
大野紗蘭	3	11-5	0	Amy SCHOEN (オランダ)
		11-3		
		11-5		
大野紗蘭	3	11-6	0	Hannah SILCOCK (ジャージー)
		11-4		
		11-9		

大会スナップ





WTT ユースコンテNDER・ルクセンブルク 2025に参加して

団長兼女子監督 青森商業高等学校 宗 片 信 一

今回の海外遠征は、全国高等学校体育連盟卓球専門部がコロナ禍以前に新たに立ち上げた強化事業の一環として実施されたものであり、長年にわたり全国の指導者から寄せられていた「選手に海外遠征の機会を多く与えてほしい」という要望に応える形で実現しました。本事業は、高体連所属の選手が努力次第でジュニアナショナルチームの選手が出場するような国際大会に参加し、より高いレベルの経験を積むことができるようにすることを目的としています。第一回はコロナ禍前に実施され、今回はそれに続く第二回の実施となりました。

さて、ルクセンブルクは、ベルギー・フランス・ドイツの三国に囲まれた西ヨーロッパの内陸国であり、経済は金融業を中心に発展しています。また、自然環境にも恵まれており、渓谷や古城が点在する美しい国です。

まずは本戦に先立ち、ドイツの強豪クラブであるザールブリュッケンにて事前合宿を実施しました。同クラブはヨーロッパ卓球界において高い競技レベルを誇っており、そこでの練習は大会に向けた準備として大変有意義なものとなりました。選手たちにとっては、技術面・精神面の両方において大きな成長を促す貴重な機会となりました。特に印象的であったのは、ヨーロッパとアジアにおける卓球スタイルの違いを肌で感じる事ができた点です。アジアの卓球はスピードと回転を重視し、テンポの速いラリーが特徴である一方、ヨーロッパの卓球は体格を活かしたダイナミックなプレーやラリー中の駆け引きが多く、選手たちはその違いを実感しながら練習に励みました。こうした異なるスタイルに触れることで、戦術の幅が広がり、対応力や応用力が養われました。

また、その成果は大会結果にも表れています。U19 カテゴリーでは、男子が日本人同士による決勝戦を繰り広げ、女子は準優勝と第3位に輝きました。U17 カテゴリーでは、男子が優勝、女子が第3位に入賞するなど、素晴らしい成績を収めました。今大会では、参加した4名全員が、それぞれのカテゴリーにおいて、すべてベスト4以上に入賞するという快挙を達成しました。これは、事前合宿の成果を証明するものであり、選手たちの努力と集中力の賜物です。本合宿および大会を通じて、選手たちは技術面のみならず、国際的な視野や競技に対する理解を深めることができました。異なる文化やプレースタイルに触れることで、自身の卓球を見つめ直し、より高いレベルを目指す意識が芽生えたように感じられます。そして、彼らの成長は目覚ましく、さらなる活躍が大いに期待できます。これらの経験は、選手たちの今後の競技人生において大きな財産となり、技術の向上に加え、国際舞台での対応力や精神的な強さを身に付けることにつながり、次なる挑戦に向けて新たな一歩を踏み出したものと思います。

この度「WTT ユースコンテNDER・ルクセンブルク 2025」に団長兼女子監督として参加させていただきましたこと心より感謝申し上げます。本大会では、日本の高体連所属の選手たちが見事な活躍を見せ、二つのタイトル獲得を含め全員が入賞するという素晴らしい成果を収めました。これは、日本の高校生の卓球レベルの高さを世界に示す貴重な機会となり、大きな喜びと誇りを感じております。

最後になりますが、大会参加に際し、各種手続き等をご支援いただいた公益財団法人日本卓球協会の皆様、ザールブリュッケンのクラブ関係者の皆様、その他多くの皆様から温かいご支援を賜りましたこと、この場をお借りして深く感謝申し上げます。今回の遠征で得た経験を今後の事業に活かせるよう引き続き尽力してまいります。

この度は、ルクセンブルクでの国際大会に男子監督として参加させていただき大変ありがとうございました。全国高体連の理事という立場での参加でしたが、選手に迷惑をかけないようできる限りの情報を集め参加しました。事前合宿をドイツで行うということで、ドイツにいる上田君、横谷君から気候、食事、電車やタクシーの乗り方、レストラン等でのマナー、周辺地区の施設状況について教えていただき準備しました。ドイツは日曜日が国営施設以外は法律で休みになっていること、駅やデパートの施設のトイレは料金が発生すること等、日本との違いを確認できました。ヨーロッパ遠征の経験があり、学生時代には第2外国語でドイツ語を専攻していた宗片団長が、練習拠点の確保から移動の電車の手配まで、今回の遠征を計画し現地の方を経由してチケットを手配していたことを聞き、驚かされました。今回は、移動をしながらの大会参加で、初日はフランクフルトのホテル泊、2日目からはザールブリュッケンの宿泊施設に2泊、4日目からはルクセンブルクのホテル泊でした。

遠征前半は言葉の壁、宿泊施設での連絡の行き違い等があり、参加選手にはかなりの不安を与えたことと思いましたが、宗片団長の交渉力で一つずつ問題を解決していきました。ブンデスリーグのシーズンが開幕していたため、土日は私たちだけの調整となりましたが、ルクセンブルク移動の最終日の午前中の練習では、クラブの選手たちと一緒に練習をさせていただきました。その中でも、パリオリンピックメダリストの樊振東とモーレゴードが練習している姿を間近で見られたことは、参加選手にも一生の思い出となるでしょう。

ルクセンブルクに移動し、今回の最大の難関となる大会の受付では、現地のボランティアでゾエさんという14歳の少女が通訳として待機してくださり、大会期間中助けていただきました。彼女は、弟がこの大会に参加しているのですが、独学で学んでいる日本語を使うために自ら参加してくれました

先に始まった U-17 に出場した森君は、初戦こそ 0-2 からの逆転勝ちでありましたが、徐々に調子を上げ見事優勝、ヨーロッパの選手のクセ球への対応や、相手のコースを読んで狙い撃ちする戦術など、試合の分析をきちんとしていて、普段指導をされている石田先生の指導力を感じました。また、優勝後のインタビューでも自分の意見を言えるところに彼の人間力の高さを感じました。U-19 は、谷本君と森君が出場、2人が同時刻での試合だったため、森君のベンチに入りました。2人とも安定した強さを見せ決勝で対戦することができました。優勝した谷本君も、表彰式の際両手を挙げて周囲を沸かせる等、陽気な一面を見せてくれました。また、U-19 女子の同時刻での試合時には、大野さんのベンチにも入りました。準々決勝では U-17 で敗れたドイツの選手に対し、最後積極的に攻め切り逆転勝ちした試合は、彼女自身が今後の課題と挙げていた攻撃力の必要性を認識できた試合でした。

出発前に、今回の高体連代表選手は真面目な選手ばかりと伺っていましたが、実際非常に良い選手たちに助けられました。団長として今回の遠征を計画・実行してくれた宗片先生、遠征までの準備・連絡等をしてくださった小林先生、母体チームで素晴らしい選手を指導している監督の先生方、全国高体連卓球専門部の多くの関係者に感謝いたします。

育英高等学校 谷 本 拓 海

この度は WTT ユースコンテンドー・ルクセンブルクに参加させて頂きありがとうございました。宗片先生や星野先生をはじめとする今大会に関わってくださった方々に支えていただき問題なく充実した2週間を過ごせました。本当にありがとうございました。

試合の結果としては U-19 で優勝することができ良かったと思います。しかし、自分にとって満足いく内容ではありませんでした。今回はヨーロッパの選手が多く参加しており、アジアの選手とは全く違う戦術や球質でした。準々決勝、準決勝と自分の方が実力的にはかなり上だったと思います。ですが結果的にはどちらも1ゲーム目を取られ2ゲーム目もリードを許す形に負けてもおかしくないような試合でした。そうなった原因の一つとして普段の違った戦術や球質への対応力の低さだと考えています。普段の練習から同じ相手の練習するのではなく色々な相手、戦型と練習し対応力を身につけていきたいと思います。そして原因の2つ目として、1ゲーム目の入りが悪いということです。準々決勝、準決勝と2つとも先に1ゲーム目を取られ苦しい展開になっていました。1ゲーム目は普段より慎重に入り、相手の得意な所や苦手な所を見つけ、すぐに戦術を変えていくことが大事だと思います。母体に帰って練習試合をするときでも1ゲーム目の入り方をより意識し、取り組んでいきたいと思います。

来年からは、大学に進学し、より高いレベルでプレーすることになるので、今回の経験を活かしさらに上を目指して頑張っていきたいと思います。このような貴重な経験をさせて頂き本当にありがとうございました。

希望が丘高等学校 森 駿 登

今回は WTT ユースコンテンドー・ルクセンブルクに参加させていただきありがとうございました。私は海外で試合をする機会が初めてだったのでとてもいい経験になりました。

試合は U17 では優勝、U19 では準優勝という結果を残すことができました。この大会を通して感じたことは海外の強い選手は台に入れる能力がすごく高いことです。試合をする前は日本人選手に比べて体格がすごいのでパワーのあるボールを打ってくる人が多いと思っていました。いざ試合をしてみると一発のボールの威力はあるものの無理に打ち込んできたりせず相手を取りづらいうところに低く入れるなど強打する前のボールがしっかりしていると思いました。またそのボールに日本人選手が打つことのないような癖のあるボールを打ってくる選手もいてとても苦戦しました。しかしそれに合わせて自分も1本丁寧に繋いでからラリーに持っていくことで有利な展開にすることができたことは良かったです。ラリーになれば特にバック対バックでは得点することが多かったので自信になりました。反省点は自分の課題でもあるレシーブです。ラリーをすることが自分の持ち味なのにレシーブを簡単にミスや浮かしてしまうことが多くありました。そこはもっと改善しなければならぬと思いました。

最後に、今回引率してくださった宗片先生、星野先生、大会に関わってくださった方々、日本のチームメイトのおかげで貴重な経験ができました。この経験をいかして今よりさらに上を目指して頑張りたいと思います。本当にありがとうございました。

横浜隼人高等学校 島村果怜

今回は WTT ユースコンテナー・ルクセンブルクに参加させて頂きありがとうございました。

私は、今回の大会で、多くのことを学ぶことが出来ました。

卓球面では、大会に行く前にプロチームであるドイツのザールブリュッケンに行かせて頂いて、実際に自分の目でプロ選手の樊振東選手とモーレゴード選手の練習を見ることができたり、ザールブリュッケンの選手とも打たせて頂いたり、普通の人は出来ない経験を沢山することが出来ました。また、大会では主にヨーロッパの色々な国の人と試合をし、1本の重さを感じました。ヨーロッパの選手は、どんな場面でも1本ミスする度に、態度に出す人がいたり、声を出す人がいたり、1本も無駄にせずに、1本1本を大切にしていると感じました。さらに、試合前の練習の際に他の国の選手と試合をすることができ、試合前に試合感を味わうことができました。

生活面では、アジアと食べ物が違い、最初は食べられるものが少なく、これから食べられるものがあるか心配でしたが、意外と食べられるものが沢山あったので、安心しました。食べ物は、ヨーロッパは全てサイズが大きく、食べ切れることがあまりできませんでした。また、日本とは違い交通機関は全て無料で何度も電車やバスに乗ることができるところが文化の違いを感じました。

今回は、いつもの WTT よりも色々な経験をできることができ、ヨーロッパとアジアの違いを卓球面でも生活面でも感じる事が出来ました。この経験を活かして、これからも頑張ります。

この度は WTT ユースコンテナー・ルクセンブルクに参加させて頂きありがとうございました。

希望が丘高等学校 大野紗蘭

今回の WTT ユースコンテナー・ルクセンブルクに参加させていただきありがとうございました。

初めて WTT ユースコンテナーに参加させていただいて、U17、U19 とともに3位と悔しい結果になりました。

私が今回の WTT で感じたことは3つあります。1つ目は、海外の選手はサーブの種類が豊富で日本の選手よりも回転がかかっている選手が多かったことです。モーションでのフェイクも多く、いつもより自分のレシーブミスが多く、レシーブが高くなって相手に3球目攻撃を打たれてしまって苦しい展開になってしまいました。また、日本の選手では少ない YG サーブも使ってくる人が多く驚きました。自分も海外の選手のサーブを研究して改善していきたいです。2つ目は、海外の選手は身長が高い選手が多く、両サイドに厳しいコースにやっても簡単にはミスをしてくれず、ミドルの連続攻撃がもっと必要だと感じました。U17 で負けたドイツの選手はミドル攻撃ができず負けてしまいました。その後、U19 でそのドイツの選手とした時には反省をいかしてミドルの連続攻撃をすることで、3-2 で勝つことができました。3つ目は、リードしている時に、攻撃し攻めていて良かったのに、安全にミスをしないうりに守りに入ってしまったって挽回されることが多かったことです。海外の選手を見てみても、攻撃の意識が高く競った場面でも当たり前前に攻めているのを見て、もっと攻撃する意識を高めることが必要だと思いました。

最後に今回の WTT ユースコンテナー・ルクセンブルクに参加させていただいて、学んだことを日々意識して練習に励んでいきたいです。本当にありがとうございました。